



令和 7 年 11 月 1 日 (土) 09:30-11:00

第 3 会場

<テーマ>

動き出した新カリキュラム ～臨地実習をより充実するためには～

<ねらい>

臨床検査技師の卒前教育として臨床検査学教育の内容が令和 4 (2022) 年入学者から改正された。新カリキュラムでは臨地実習が 5 単位増加し 12 単位となり、そのうち 3 単位以上は生理学的検査を行うこと、臨地実習前に行う技能修得到達度評価 の 1 単位が必須となった。また、臨地実習期間中に学生が実施する行為、見学する行為及びそれに対する評価基準書も定められた。その点を含めて改正された方向でスタートした臨地実習に関して、受け入れ先の各施設における問題点、改良点など今後の実習を充実させるために議論したいと考えております。

司会 棚橋 伸行 (鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部臨床検査学科)

松村 隆弘 (北陸大学 医療保健学部医療技術学科)

<講演内容>

1. 当院における臨地実習の現状

演者：安田 純香 (春日井市民病院 臨床検査技術室)

2. クリニックでの取り組み

演者：大橋 悟 (坂の上ファミリークリニック 医療技術課)

3. 当院における新カリキュラム臨地実習の現状と今後の課題

演者：福田 由里子 (岐阜赤十字病院 検査部)

4. 臨床検査技師の臨地実習における現状と課題

演者：村椿 智佳子 (富山市民病院 中央研究検査部)